

受賞

玉井 博也君(内91回)

2025年度日本リウマチ学会奨励賞受賞



本リウマチ学会奨励賞を受賞し、第69回日本リウマチ学会総会(2025年4月24日、福岡)において表彰された。本賞は本邦において表彰されるリウマチ学に関する臨床的または基礎的研究者に対するものである。玉井君は基礎研究として関節リウマチにおける破骨細胞とサイトカイン動態に取組む一方、大規模多施設国際共同臨床試験を通じて、欧州リウマチ学会において5年連続でオラル発表するなど、日本を代表する若手研究者として活躍中である。本受賞を励みに、今後のさらなる世界的活躍を期待される。

清水 映輔君(眼92回)

2024年ドライアイリサーチアワードを受賞!!



アイ研究の向上発展に寄与することを目的として、毎年、該当する研究者に送られるものである。今回、清水君は「Artificial intelligence to estimate the tear film break up time and dry eye disease」(人工知能を用いた涙膜破裂時間とドライアイの診断)というテーマで、ドライアイの主要な所見である涙膜層破壊を、AIを用いて推定するモデルを開発したと発表され、受賞に至った。2024年10月に京都で開催された「第80回日本臨床眼科学会」において、受賞講演が行われた。

小笠原 淳君(92回)

第98回日本超音波医学会学術集会にて奨励賞受賞



2025年5月30日、6月1日に国立京都国際会館にて開催された第98回日本超音波医学会学術集会において、小笠原君が「超音波を用いた胎児の3次元形態推定可能である」を発表した。この発表は、超音波医学の発展に寄与するものとして、研究者を表敬するものである。臨床医の賛同を得られたことは非常に勇気づけられるものであった。

藤村 直樹君(外82回)

2025 Vascular Annual MeetingのInternational poster competition 優勝



「Vascular Annual Meeting」において、外科、消化器、一般、小児科の藤村君が「International poster competition」で優勝した。本会は米国血管外科学会の総会であり、全世界から3,000人以上が集まる血管外科の世界最大の学会の一つである。藤村君は「Detailed analysis of elective endovascular aneurysm repair for nonagenarians in Japanese population shows comparable mid-term results with open surgery」(90歳以上の日本人における選択的血管内治療の中期結果は開腹手術と比較可能である)というテーマで発表し、84例の90歳以上の患者を対象とした比較的研究の結果を発表した。

柴田 護君(71回)

2025年度日本神経学会Excellent teacher 表彰

2025年5月24日に大阪国際会議場で開催された第66回日本神経学会学術大会において、柴田君が「Excellent teacher」に表彰された。柴田君は、慶應義塾大学神経内科学科教授・71回が、同大会の「2025年度Excellent teacher」に表彰された。この制度は、同大会で主権する各種のセミナーの講師や教育用動画の作成者、教育活動に貢献した会員を対象に、13年から毎年表彰しているものである。同君は、慶應義塾大学神経内科学科教授・71回が、同大会の「2025年度Excellent teacher」に表彰された。この制度は、同大会で主権する各種のセミナーの講師や教育用動画の作成者、教育活動に貢献した会員を対象に、13年から毎年表彰しているものである。

加藤 玖里純君(6年)

第42回日本神経治療学会学術集会メディカルスタッフ演題最優秀演題賞

2025年5月24日に大阪で開催された第66回日本神経学会学術大会の学生・研修医演題最優秀秀口演題を受賞した。医学部6年生(1006)の加藤玖里純君(71回)が、2024年11月に開催された第42回日本神経治療学会学術集会のメディカルスタッフ演題にて「ALSの脊髄運動ニューロン表現型とpolygenic risk score」を演題として最優秀演題賞を受賞した。2025年5月24日に大阪で開催された第66回日本神経学会学術大会の学生・研修医演題にて「ALSの脊髄運動ニューロン表現型とpolygenic risk score」を演題として最優秀演題賞を受賞した。

国から提出されたボタンの中から30名が選出され、発表を願いました。藤村君の今後のさらなる活躍を期待しております。

鈴木 浩司君(内98回)

平本 和音君(内92回)

近藤 泰君(内88回)

JCR2025国際ワークシップExcellent Abstract Awardをトリプル受賞

2025年4月24日、26日に開催された第89回日本リウマチ学会総会・学術集会において、鈴木君(98回)、平本君(92回)、近藤君(88回)の3名が国際ワークシップ「Excellent Abstract Award」を受賞した。本賞は、本会の英語セッションにある国際ワークシップに登録された演題の中から厳正な審査により、最大30名の若手の優秀演題に選ばれる賞である。

日比 泰造君(外77回)

2025年国際肝移植学会賞(臨床研究部門)を受賞

2025年5月10日、シンガポールで開催された国際肝移植学会総会・日本比較外科外科学会において、日比君が「肝臓移植における免疫抑制薬の最適化」を演題として最優秀演題賞を受賞した。日比君は、慶應義塾大学外科教授・77回が、同大会の「2025年度Excellent teacher」に表彰された。この制度は、同大会で主権する各種のセミナーの講師や教育用動画の作成者、教育活動に貢献した会員を対象に、13年から毎年表彰しているものである。

池田 織人君(放95回)

第84回日本医学放射線科学会総会Young Investigator Awards 1st prizeを受賞

今年の4月にパシフィコ横浜で開催された第84回日本医学放射線科学会総会において、池田君(95回)が「Young Investigator Award」の最優秀賞を受賞した。同賞は今年から新設された。一般演題の中から一次審査で40題、二次審査で6題に絞られ、学会で6人の審査員により最終審査が実施された。池田君の演題「Differences in Pulmonary Arterial and Venous Volumes Between Supine and Upright CT Scans」は、陣崎雅弘教授(放診66回)が中心となり、小林博也君(104回)に続き、3年連続で当研究グループの学生が受賞する快挙となった。当研究グループに所属し進めたものであり、今後の活躍が期待される。

す。また、この場を借りて北川雄光教授、ならびに慶應義塾の先生方の日頃の協力に心より感謝を申し上げます。(尾原秀明 外72回)

八木 文子君(放94回)

第84回日本医学放射線科学会総会フィルムリーダーイング最優秀賞を受賞

2025年5月23日、25日に岡山で開催された日本産科婦人科学会学術講演会において、八木君(94回)が「フィルムリーダーイング」部門で最優秀賞を受賞した。八木君は、慶應義塾大学放射線科医学生・94回が、同大会の「2025年度Excellent teacher」に表彰された。この制度は、同大会で主権する各種のセミナーの講師や教育用動画の作成者、教育活動に貢献した会員を対象に、13年から毎年表彰しているものである。

池ノ上 学君(産婦86回)

第77回日本産科婦人科学会学術講演会でロート女性健康科学研究賞を受賞

2025年5月23日、25日に岡山で開催された日本産科婦人科学会学術講演会において、池ノ上君(86回)が「ロート女性健康科学研究賞」を受賞した。本賞は2009年に設立され、産科婦人科研究の発展・向

種田 桐子君(6年)

第57回日本結合組織学会でYoung Investigator Awardを受賞

2025年6月7日、8日に大阪大学で開催された第57回日本結合組織学会において、種田君(6年)の演題「MMP-13の発現と関節炎」が最優秀賞を受賞した。種田君は、慶應義塾大学医学部6年生(1006)の種田桐子君(6年)が、同大会の「2025年度Excellent teacher」に表彰された。この制度は、同大会で主権する各種のセミナーの講師や教育用動画の作成者、教育活動に貢献した会員を対象に、13年から毎年表彰しているものである。

ることを明らかにした。世間の関心が高まっている時期であったこともあり、オンライン掲載後わずか2か月で年間最高数の過去最高を獲得し、マスコミからの取材申し込みも数回あった。中

中野 健裕君(放82相当)

2024年度日本医学放射線学会最優秀論文賞を受賞

2024年度の日本医学放射線学会最優秀論文賞を当科の中野健裕君が受賞した。中野君は、慶應義塾大学放射線科医学生・82相当が、同大会の「2025年度Excellent teacher」に表彰された。この制度は、同大会で主権する各種のセミナーの講師や教育用動画の作成者、教育活動に貢献した会員を対象に、13年から毎年表彰しているものである。

種田 桐子君(6年)

第57回日本結合組織学会でYoung Investigator Awardを受賞

2025年6月7日、8日に大阪大学で開催された第57回日本結合組織学会において、種田君(6年)の演題「MMP-13の発現と関節炎」が最優秀賞を受賞した。種田君は、慶應義塾大学医学部6年生(1006)の種田桐子君(6年)が、同大会の「2025年度Excellent teacher」に表彰された。この制度は、同大会で主権する各種のセミナーの講師や教育用動画の作成者、教育活動に貢献した会員を対象に、13年から毎年表彰しているものである。

池ノ上 学君(産婦86回)

第77回日本産科婦人科学会学術講演会でロート女性健康科学研究賞を受賞

2025年5月23日、25日に岡山で開催された日本産科婦人科学会学術講演会において、池ノ上君(86回)が「ロート女性健康科学研究賞」を受賞した。本賞は2009年に設立され、産科婦人科研究の発展・向

ることを明らかにした。世間の関心が高まっている時期であったこともあり、オンライン掲載後わずか2か月で年間最高数の過去最高を獲得し、マスコミからの取材申し込みも数回あった。中

種田 桐子君(6年)

第57回日本結合組織学会でYoung Investigator Awardを受賞

2025年6月7日、8日に大阪大学で開催された第57回日本結合組織学会において、種田君(6年)の演題「MMP-13の発現と関節炎」が最優秀賞を受賞した。種田君は、慶應義塾大学医学部6年生(1006)の種田桐子君(6年)が、同大会の「2025年度Excellent teacher」に表彰された。この制度は、同大会で主権する各種のセミナーの講師や教育用動画の作成者、教育活動に貢献した会員を対象に、13年から毎年表彰しているものである。

池ノ上 学君(産婦86回)

第77回日本産科婦人科学会学術講演会でロート女性健康科学研究賞を受賞

2025年5月23日、25日に岡山で開催された日本産科婦人科学会学術講演会において、池ノ上君(86回)が「ロート女性健康科学研究賞」を受賞した。本賞は2009年に設立され、産科婦人科研究の発展・向

種田 桐子君(6年)

第57回日本結合組織学会でYoung Investigator Awardを受賞

2025年6月7日、8日に大阪大学で開催された第57回日本結合組織学会において、種田君(6年)の演題「MMP-13の発現と関節炎」が最優秀賞を受賞した。種田君は、慶應義塾大学医学部6年生(1006)の種田桐子君(6年)が、同大会の「2025年度Excellent teacher」に表彰された。この制度は、同大会で主権する各種のセミナーの講師や教育用動画の作成者、教育活動に貢献した会員を対象に、13年から毎年表彰しているものである。

ることを明らかにした。世間の関心が高まっている時期であったこともあり、オンライン掲載後わずか2か月で年間最高数の過去最高を獲得し、マスコミからの取材申し込みも数回あった。中

種田 桐子君(6年)

第57回日本結合組織学会でYoung Investigator Awardを受賞

2025年6月7日、8日に大阪大学で開催された第57回日本結合組織学会において、種田君(6年)の演題「MMP-13の発現と関節炎」が最優秀賞を受賞した。種田君は、慶應義塾大学医学部6年生(1006)の種田桐子君(6年)が、同大会の「2025年度Excellent teacher」に表彰された。この制度は、同大会で主権する各種のセミナーの講師や教育用動画の作成者、教育活動に貢献した会員を対象に、13年から毎年表彰しているものである。

池ノ上 学君(産婦86回)

第77回日本産科婦人科学会学術講演会でロート女性健康科学研究賞を受賞

2025年5月23日、25日に岡山で開催された日本産科婦人科学会学術講演会において、池ノ上君(86回)が「ロート女性健康科学研究賞」を受賞した。本賞は2009年に設立され、産科婦人科研究の発展・向

種田 桐子君(6年)

第57回日本結合組織学会でYoung Investigator Awardを受賞

2025年6月7日、8日に大阪大学で開催された第57回日本結合組織学会において、種田君(6年)の演題「MMP-13の発現と関節炎」が最優秀賞を受賞した。種田君は、慶應義塾大学医学部6年生(1006)の種田桐子君(6年)が、同大会の「2025年度Excellent teacher」に表彰された。この制度は、同大会で主権する各種のセミナーの講師や教育用動画の作成者、教育活動に貢献した会員を対象に、13年から毎年表彰しているものである。

